

## 序

本書は、代議士三年生たる私の、貧しい半生の記録と、折に触れ事に臨んでものした随想や、断想をとりまとめてみたものである。

昭和二十八年十月、私は、代議士生活一周年を記念して「財政つれづれ草」をものし、先輩や友人の多くに読んでいただいたのであるが、既知の方々からはもとより未見の人々からも思わぬ愛恵を受けたものである。本書はその中で捨て難いものを選択し、その後新聞や雑誌に載せた随想や人物論が多少たまったので、新に起稿した数篇を加えて、とりまとめてみたものである。

これは別に体系立った記録や提言ではないので、厳密な学問的考証に耐える性質のものでは勿論ない。また私の物の見方や判断には数々の偏見や固執がないとは言われない。しかしそれだけに、本書を通して私は、素直に事実を語り人物を鑑賞し、それらに私なりの大胆な評価や選択を加えたものであると言える。

日本の民主政治が、それを繞る日本社会の世界的不安の只中に、重ぐるしい陣痛の苦悶を続けている激動期において、平凡な一代議士の精神に育まれたささやかなレヂスタンスを、読者各位が本書を通して幾分でも汲みとっていただければ、それは私にとっての何ものにも代え難い慰めである。

本書の出版に当って高示と援助をいただいた先輩加藤藤太郎氏の恩顧と、終始助力を惜しまれなかつた岩倉淳一、鈴木英之両君並に装頓の勞を採られた藤田静加さんの友情に衷心から謝意を表したい。

昭和三十年十月一日

代議士生活三周年を記念して

大 平 正 芳